

【作成要領2】 高校・特別支援学校・各種団体用

団体名	連絡先 TEL : 098-998-2401
沖縄県立南部商業高等学校	Eメール : nanbu_ch2401@open.ed.jp

1 実践事項（今年度の実践）

タイトル：「本校における学力向上に対する取組」

2 実践内容

- (国) 全学年に共通している課題は「要旨の把握」「指示語」「接続詞」の理解で、文章を読み解く際の語彙力に理解の顕著な不足を感じ、進路マップのマナトレ国語標準編を朝学として週3回程度行い、定期考査にも出題し成績に反映させている。漢字力テストを1学期末と2学期末に全校一斉に実施している。使用テキストを授業の中で毎時間10分程度取り組ませている。
- (社) 世界史Aでは、小単元毎に確認テストを実施し重要語句の知識の定着を図っている。全生徒が教科書準拠のノートを持っているので、重要語句のチェックや、考査試験対策に活用している。
- (数) 朝学で、基礎計算問題を繰り返し取り組ませ、基礎計算力の定着を図っている。提出により生徒の学習状況を確認し、朝学の内容は定期考査にも出題し成績に反映させている。また、授業においては、個別に丁寧な指導を行い、個々の計算力UPに努めている。
- (理) 科学と人間生活では、小単元毎に確認テストを、Formsを利用して実施した。各確認テストは6～9問で、4～6個の選択肢から選び解答する方式である。何度でも試行でき（ただし、毎回選択肢の順序は変わる）、全問正解するまで行うことで知識の定着を図っている。
- (商) 生徒の隙間時間を利用し、基本の計算問題や国語の問題に取り組んでいる。また、定期考査でも同じ問題を出題している。ベーシックでは、数学・国語と連携しながら基礎学力の修得に努めている。朝学においても商業で学ぶ基礎的な部分を学年に応じた問題を解かせている。

3 成果・課題

- (国) GTZ上昇者が2年生62人、3年生41人で改善が見られた。練習プリントを評価に入れることで取り組ませようとしているが、下位層にとっては取り組み状況にまだまだ課題がある。
- (社) 2学期中間よりも授業内容が難しくなっていたが、確認テストを活用することによって中間よりも期末は成績が向上したように感じる。活用している生徒とそうでない生徒との個人差が大きいため、全員がしっかり活用できるように生徒たちに働きかけなければならないと感じている。
- (数) 朝学で身につけた計算力の定着が課題である。根気強く基礎計算問題を繰り返し学習させることが重要である。
- (理) 確認テスト全問正解の回数が多い生徒ほど成績が向上した。簡単にアクセスできるようにQRコードを利用している。すべての確認テストで全問正解するまで解答する生徒は固定されていて、実施状況は個人差が大きい。授業中に解答させることもあるが、それでも1度で諦める生徒もいる。
- (商) 生徒の学力にひらきがあるため、全生徒に同じように基礎学力を定着させることはとても難しいが、わからなくても頑張っ取組む姿勢や教え合う事が大事だと指導している。根気強く指導することで、徐々に自ら取り組む姿勢も見られるので、継続して指導を行っていきたい。